練習艦隊 サントス入港

小雨の中、熱烈歓迎

五味司令官「帰国したような喜び」

隊員の心遣いに感激

十八日午前八時、予定時刻ちょうど、第七回海上自衛隊練習艦隊三隻がサントス港にその勇姿を現し、小雨降るあいにくの日和にもかかわらず手に手に日伯の小旗を持った百人余りの日系人の出迎えを受けた。サントス日本人会は心尽しの歓迎式典を催し、来伯した自衛隊員らを喜ばせた。出迎え者からは、「今年の隊員は例年に比べて親切で溌剌としている」と上々の評判。十九日からの各種催事でのコロニアとの交流に期待を持たせた。

「午前七時からポンタ・ダ・プライヤで待機し、練習艦隊が近づくのを確認、すぐに埠頭へ車を飛ばして来ました」と、サントス日本人会の川島文夫体育部々長は声を弾ませた。

着岸する第二十九・三十埠頭には、サントス日本人会関係者を中心にスザノのイッペランジア・ホームなどからも出迎え者があり、波を切って入港した練習艦「かとり」護衛艦「はまゆき」、「いそゆき」を、雨の中、熱烈に歓迎した。

午前九時半、田中克之在聖総領事が、続いてダビ・カピストゥラーノ・フィーリョ・サントス市長が「かとり」を訪艦し約四十人からなる儀仗隊と音楽隊の栄誉礼を受けた。

この頃には地元日系の願いが通じたせいか、雲間から太陽がのぞき、厳粛な雰囲気が漂い始めた。

十時過ぎからサントス日本人会による入港歓迎行事が催され、同会の上会長による歓迎の挨拶に続き、カピストゥラーノ・サントス市長から「このサントス港は日系人にとっても記念すべき場所短い停泊ではあるが、ゆっくり英気を養って下さい」と歓迎の意が表された。

続いて同会の吉田恵エリザさんら五人から五味睦佳司令官、中上修司首席幕僚及び各艦々長に花束が贈呈され、和かな雰囲気に包まれたまま開会した。

並列接岸した練習艦「かとり」(右)と「はまゆき」

老婆を背負い艦上見学に案内する隊員

本紙の取材に答えて五味司令官は、「各国の日系人の歓迎の中でも、ブラジルは特別に心暖かいものを感じる。日本語も通じるし、まるでもう日本に帰ってきたかのような喜びと連帯感がここにはある。私は二十八年前に幹部候補生として戦後第一回目の練習艦隊にも参加した。その時の埠頭いっぱいに立ち並んで小旗を振る日系人の歓迎の様子が眼に焼きついたままです」と、当時を回想同時に今回集まった百人ほどの出迎え者を眺めながら、時の移り変りに感慨深そうな表情をのぞかせた。

練習航海中に政権日本が交代するという異例の事態に関しては、「日本を出発する時には宮沢総理大臣に挨拶したが、帰国した時には細川総理に報告することになり、私も嬉いている。知っている人が代わることには、少し寂しい気持も感じる」と感想をもらした。

一方歓迎に出向いた人達は自衛隊の心配りに感激。「前回までは一般公開の時まで船に乗せてくれなかったのに、今回はセレモニーの始まる前にガイドをつけて見学させてくれた。本当に温か味のある受け入れをしてくれている」と川島部長は語った。

見学者がはまゆきからかとりへと乗り移る時に、自衛官の一人が足腰の弱ったおばあさんを背負ってあげる場面もみられ、おばあさんも感激しきりに、何度も何度も頭を下げて礼を述べていたのが印象的だった。

出迎え陣の中で、旧海軍の軍艦をフィリピンで出向えたことがあるという老人は「かとり」の印象を「大きさはかなり小さいけれども、今の日本の技術に勝るとはない」と力強い口調で語っていた。

サントス29号埠頭での艦隊員歓迎式典

きょう歓迎式典

艦内の一般公開はじまる

十九日の練習艦隊関連行事は次の通り。

午前十時半から聖市イピランガ独立記念碑で海上自衛隊による献花式。同隊の儀仗隊や音楽隊も出動し、伯国海軍と共に厳かな式典を行う予定。

午前十一時半から文化センター記念講堂で歓迎委員会主催歓迎式典。日系子弟・婦人による海上自衛隊の歌、花束贈呈、万歳三唱、音楽隊演奏(十五分間)など。半舷上陸するのは北海道、青森、秋田、岩手、宮城、山形、福島、茨城、栃木、埼玉、千葉、神奈川、群馬、新潟、長野、山梨、静岡、富山、愛知、福岡、熊本出身の隊員三百七十九人。歓迎委員会は一般来場者に、十一時頃には文化センター前で日伯小旗を配るので、入場する隊員を一緒に歓迎するよう呼びかけている。

十二時半から同会主催の幹部歓迎会、午後一時半から各県人会主催の歓迎会。四時半からはイピランガ公園の開拓先没者慰霊碑で献花。

なおサントスでは午後一時半から四時まで艦内一般公開が行われる。

アンテナ

「美しいサントス港に入港できて大変嬉しい」と五味司令官はサントス日本人会主催の歓迎会で挨拶。「移民八十五周年の記念すべき年にこうして訪問でき、短い期間ではあるができる限り多くの人に巡り会い友情と親交を深められれば、これに勝ることはない」と力強い口調で語っていた。

◎

自衛隊の練習艦「かとり」は今回が最後の外洋航海。後継艦は二年後に竣工予定の「かしま」で、これには女性士官の乗艦も予定されているとか。さきごろ国会では初の女性衆議員議長が誕生したが何年後かには女性司令官の練習艦隊が来伯するかも。

◎

さきごろ行われた老ク連主催の去乖祭に設置されたセンター建設共同募金箱には、なんと総額一クルザドル。赤い赤字の五百四十五ドルよそ入金に換算して旧五百十枚、ロ札が寄がなかいたことは上金額の的、社い高額思うと手ばなけないがこと。よう。

ABCで邦人地区対抗陸上

第九回ABC地区邦人陸上大会(木内荘三実行委員会代表)が、二十九日午前八時からサントアンドレ市SESI(プレフェート・サラジーノ駅横)で開催される。

サントアンドレ、サンベルナルド、マウア、マウア、ウロン、グランの各日系が出場。

十六表は、は六百出稼ぎ今はそ区青年残してなさ

「まずい水 藍藻類が原因」

「水博士」が着聖

聖市の貯水湖など調査、分析

日本でも指折りの水道水の権威、小島貞男日本水道コンサルタント中央研究所所長が十七日午前、聖市の水道水調査のため来聖。招請した在伯奈良県人会(梅崎嘉明会長)の案内で同日午後、ギンザ・ホテル応接室で記者会見を行った。

同調査は、「臭くてまずい水」に悩まされている聖市全市民の不満に応え、水道水浄化運動に取り組んできた同県人会の強い要請により実現したもの。梅崎会長から送られてきた手紙で聖市の水道水の現状を知った小島さんは、同県人会の運動に好意的に協力、信子夫人とともに観光旅行を兼ねての調査となった。

「ホテルについてこちらの水を飲んでみましたが、かつては良質の水だったのではないかと推測しています。水質も日本人の口にも合い、いくら飲んでも病気になることはないでしょう。ただし臭いはものすごい。これは、水源池に発生する藍藻類が原因」と早速、聖市の水道水を分析。「藍藻類は水が汚れると必ず発生、高温を大変好む」と、まさに聖市の水源池が、藍藻類の発生し易い条件にあることを説明した。

環境水質浄化に携わって四十年になる小島さんが「他の同業者に自慢できる」のが、日本の貯水池五十カ所の〝臭い〟を消した実績のある独自の水質装置システムを開発したこと。この方法は、まず直径一メートル、長さ十メートルほどの円筒を湖面に突き刺し、エアー・コンプレッサーを使って筒の下部に空気を送り込む。丁度大砲の玉のようになった空気の玉が上昇し爆発、これを繰り返すことにより湖水は循環。水面に発生した藻類を太陽光線の届かない水床に沈め、光合成を防ぐことで汚濁の原因である藻類を退治するというもの。

二回目の来伯となった小島さんは、「USPの陸水学科のセミナーに招待された七年前の来伯時には、ブラジリア水道局の依頼で同地の水源池、パラノノア湖の水質を調査しましたが、この湖にも相当アオコが発生してました。私たちの研究した浄化装置を使えば、一二カ月後には元の美しい湖に戻るのですが、なにしろ費用がかかりすぎて…」JICAに資金援助も要請したがとり合ってもらえず、三年後に再び本格的調査も開始されたが結局資金面で折り合いがつかず、同計画はお流れとなったという。

小島さんは、同県人会が練習艦隊歓迎に忙しい十八日から二十一日まではイグアスなどを観光旅行。二十三日から三日間野村文吾下院議員の仲介で州政府水道局(SABESP)を視察。ピリングス湖やグアラピランガ湖、浄水場などを調査後結果データをSABESPに提出、聖市水道水の問題改善を働きかけていく。帰国は、三十一日。

また、同水道水浄化運動には、同県人会の呼びかけにより、ブラジル郡道州県人会連合会(中西忠勇会長)、ブラジル日本文化協会(山内淳会長)、サンパウロ日伯援護協会(原沢和夫会長)の日系三団体も共同参加している。

来聖した小島所長

「収益は地震見舞金」

東北・北海道で

東北・北海道などの七県人会が共催する「第十回東北・北海道親睦演芸祭り」(大会委員長・宮田兼雄秋田県人会々長)が、二十二日午前九時から在伯岩手県人会(トマス・ゴンザガ九五番)で開催される。

当日は、カラオケ・民謡、童謡や、どんぱん踊り(秋田)、さんさ踊り(岩手)、ソーラン節(北海道)、花笠踊り(山形)、相馬盆踊りなども披露される。

優勝者には佐々木喜久治秋田県知事杯が渡され各種トロフィや参加賞も用意されている。また十周年記念として、実行委員会会回出席率優良者には感謝状と記念品も送られる。

実行委員長の菊地義治岩手県人会々長は、「収益は北海道南西地震被災地へ寄付します。東北、北海道以外の方も歓迎ですので下さい」

サ家サウ(童二アデ家する。サウ徒父ご家パレお友デ日本い」

文体案